

高速道路整備とその料金政策に寄せて

2013年4月11日

公益財団法人 高速道路調査会

高速道路の料金制度に関する研究委員会

杉山雅洋

[主要な論点]

1. 高速道路の整備と今後の姿

- 社会・経済活動における高速道路の機能と役割
 - ・最上位の交通機能
 - ・市場分担率
- 高速道路論議のあり方
 - ・政策理念 → 整備手法 → 運営手法
 - ・道路関係四公団改革の評価
- 無料論の神話
 - ・ピーターズ米連邦交通省前長官の主張
 - ・維持管理有料制案
- 社会的費用最小化の視点
 - ・“鉄道 vs 道路” 論議の時代は去った！

2. 欧米主要国の道路政策からの示唆

- 戦略的幹線道路網の見直し
 - ・経済成長・国際競争力

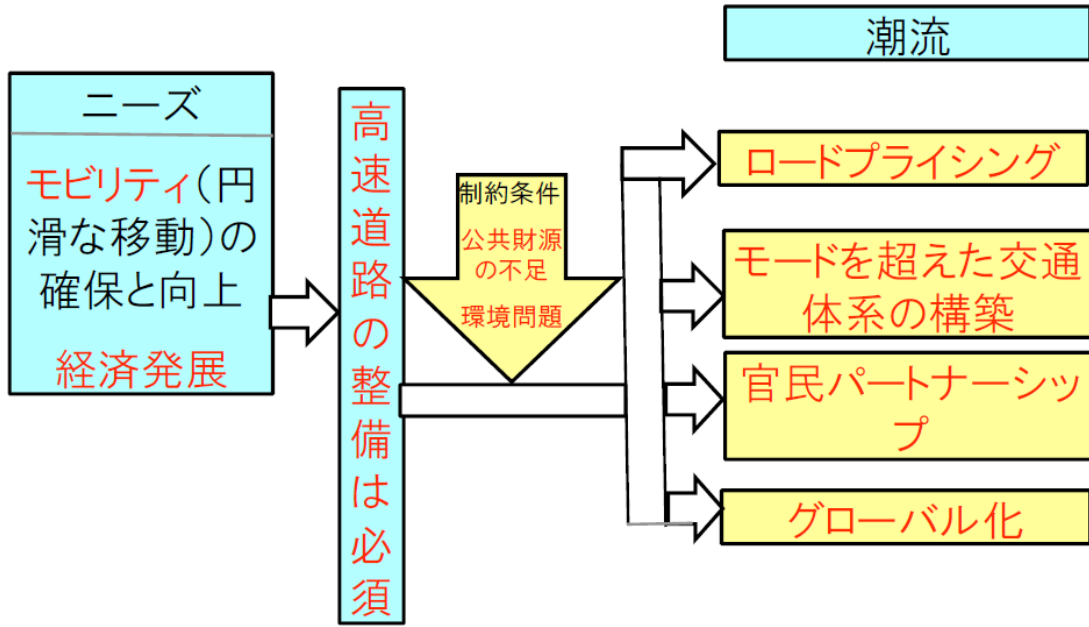
- ・非常時対応力
 - ・国内地域間の経済力の均衡化
 - ・クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)
- 公的資金の不足と高速道路事業の多様化による対応
- ・公的資金の不足は各国共通
 - ・PPP、DBFO、コンセッション等 (→ 図 世界の高速道路事業の潮流)
- 公共と民間の役割
- ・目標設定、KPI の設定とモニタリング、渋滞・環境問題の解決、整備財源の確保
 - ・事業運営の効率化
 - ・リスク分担

3. 料金制度のあり方

- 擬似的市場メカニズムの活用と課題
- ・民営化の意義
 - ・地域独占的価格への対応
- 高速道路施設の有効利用
- ・整備財源の負担
 - ・画一料率制 vs 路線別(地域別)料率制
 - ・料金水準と利用者の負担可能性
- 現行償還対象経費
- ・用地費
 - ・維持更新費
 - ・外部費用
- 利用者にとっての判りやすさ(難さ)と納得性
- ・基本料金と割引料金 (→EU、スイス、日本の重量貨物車の対距離課金額比較表)
 - ・車種間料金比率

図 1

世界の高速道路の潮流



出典) 日本高速道路保有・債務返済機構 『欧米の高速道路政策』 海外調査シリーズ No18(H24.9)
p6

表 1

EU、スイス、日本の重量貨物車（総重量 20 トン、3 軸、EUROⅢ、昼間）の対距離課金額比較表

単位：ユーロセント／台 km

国名 地域 区分	ドイツ		オーストリア		チェコ		スイス		フランス		日本	
	都市近郊	都市間	都市近郊	都市間	都市近郊	都市間	都市近郊	都市間	都市近郊	都市間	都市近郊	都市間
現状	19.00	19.00	27.0	27.0	17.4	17.4	43.6	43.6	22	19	45.9	38.5
											23.9	20.1
改正案	92.1	32.1	100.1	40.2	90.5	30.5	-	-	84.1	24.1	-	-
合意案	33.3	25.1	47.3	33.2	30.5	23.5	-	-	19.3	17.1	-	-

出典) 日本高速道路保有・債務返済機構 『欧米の高速道路政策』 海外調査シリーズ No18(H24.9) p126,p127 より西川了一氏修正

1. 改正案とは、ユーロピニエット指令 (Directive 2006/38/EC) の 2010 年 10 月議長国提案の改正案、合意案とは、Directive 2011/76/EUとして成立したものを指す。
2. 日本の上段は大型車高速道路料金（各種割引なし）、下段は大型車高速道路料金（平日昼間割引、大口多頻度割引考慮）。
3. フランスの改正案、合意案は、2013 年 10 月導入予定の重量貨物車課金の単価により推定。

[参考メモ]

1. 高速道路整備と費用負担

○道路の本質

- ・人の移動、物の輸送と道（道路）とのかかわり
- ・移動権（交通権）の確保と国の役割

（シュライバー[4]）

○幹線道路網のもつ立国的意義

- ・経済成長・国際競争力
 - *市場へのアクセススピード／コストの改善
 - *ジャストインタイムの物流網の構築
 - *工場立地選択肢の拡大と労働力の広域活用
 - *輸出入空港・港湾へのアクセススピード／コストの改善
 - *人流・物流の活発化
- ・非常時対応力
 - *国防戦力の迅速な移動／配備
 - *災害救助物資／要員の迅速移動
 - *非被災地での暮らしと企業活動の継続
 - *高度医療／緊急医療受診可能地域の広域化
- ・国内地域間の経済力の均衡化
 - *工場立地選択肢の拡大
 - *産直商品流通の広域化
 - *労働通勤圏の広域化
 - *旅行・レジャーの広域化
- ・クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）
 - *人的交流・産直品の購買広域化

*文化交流

*旅行・レジャー

(高速道路機構[3、p12~13])

○高速道路整備検討のプロセス

政策理念 → 整備手法 → 運営手法

○高速道路事業の潮流と費用負担のあり方

- ・事業手法の多様化
- ・新設、維持管理、維持更新
- ・受益(損傷)と負担
- ・料金負担(利用者負担、受益者負担、損傷者負担)

cf. pricing 導入による余剰の変化とそれへの対応

- ・税金負担(納税者負担)
- ・料金負担+税金負担

eg. 「有料だから補助金が不要だということもないし、料金は償還だけを目的とするものでもない」(高速道路機構[3、p40])

2. 欧米諸国の道路政策における最近の主な動向

○英国

(・1215 マグナカルタ)

(・19世紀後半のターンパイク・トラスト破綻のトラウマ)

- ・1964 Smeed report
- ・2003.2 congestion charging

2005.7 料金60%値上げ

2007.2 対象区域の拡大(→2010.12廃止、2011.1新料金体系)

- ・2008.2 LEZ(Low Emission Zone)課金導入

○米国

(・1955 アイゼンハワー大統領のスペシャル・メッセージ)

(・1956 連邦補助道路法)

- ・2005 SAFETEA-LU(2004～2009年対象→2012.3まで延長)
- ・2009.2 Paying Our Way-A New Framework for Transportation Finance
- ・2012.7 MAP-21

○イタリア

- ・ANAS(国道管理庁)の変遷(→2012.10 コンセッション会社に特化)
- ・アウトストラードの民営化とアベルティスとの合併問題
- ・2011.7 鉄道及び道路インフラ基金創設(交通特定財源制度)

○フランス

- ・2005.1 交通インフラ資金調達庁(AFITF)設立(交通特定財源制度)
- ・2013.10 エコ・タクス導入予定

○ドイツ

- ・1995.1 ビニエット制導入(→2003.8廃止)
- ・2000.9 ヘルマン・レポート
- ・2002.4 アウトバーン料金法(→2005.1 アウトバーン対距離料金制)
- ・2003.7 BVWP2003(2001～2015年対象)
- ・2011.7 連邦長距離道路料金法

○スペイン

- ・1972 新アウトピスタ・コンセッション法
- ・1984～1991 国家高速道路計画(アウトピスタからアウトビアへの転換)
- ・1988 国家高速道路計画
- ・1996～2009 アウトピスタの復活
- ・2003.5 新コンセッション法

○EU

- ・TEN計画
- ・重量貨物車の道路利用課金
- ・ユーロビニエット

出典：高速道路調査会[1、第2章]

高速道路機構[2]

他

3. 高速道路の料金制度の課題

- 料金制度の判りやすさ(判り難さへの工夫)
- 画一料率制 vs 路線別(地域別)料率制
- 償還主義、償還期間
- 現行の償還対象経費
 - ・用地費
 - ・維持更新費(→ 4. の第3項参照)
 - ・外部費用
- 技術革新への対応(活用)

4. 高速道路の今後—無料か有料か—

- 原則：償還後無料公開
- 道路は無料であるという「神話」？ —ピーターズ米連邦交通省前長官 (Innovators in Action 2008 への寄稿)

「近代的なテクノロジーと料金徴収、さらに動的な道路課金の、強力な組み合わせを活用することで、高速道路を最高の効率で運営することができる。そうしないと、道路は無料であるという神話を維持し続けることになり、米国民が、時間の喪失、燃料の浪費、および米国経済の疲弊という形で、渋滞の高い代償を支払うことを無視し続けることになる。」 (高速道路機構 [3、p38])

- 維持管理有料制案
 - ・H 4.6 道路審議会中間答申
 - 「償還満了後の維持管理費の負担のあり方の議論が望ましい」
 - ・H7.11 道路審議会中間答申
 - 「償還満了後も料金で維持更新を行うことが適当」

- ・ H23. 12 高速道路のあり方検討有識者委員会 中間とりまとめ

「利用者負担での整備区間は、償還後も利用者負担とすることは妥当であり、検討すべきである」

cf. 「維持管理」と「維持更新」

管理：良い状態であるように気を配り、必要な手段を（組織的に）使ってさばくこと。

更新：あらたまること。また、あらためること

○高速道路施設の有効活用

- ・ 料金水準のあり方
- ・ 交通市場での競争条件
- ・ 社会的費用最小化の視点

参考文献

- [1] 高速道路調査会 高速道路の料金制度に関する委員会 『高速道路の料金制度に関する研究 中間報告』（H23. 8）
- [2] 日本高速道路保有・債務返済機構（西川了一） 『欧米の高速道路政策』、海外調査シリーズ No. 18（H24. 6）
- [3] 日本高速道路保有・債務返済機構（勢山廣直） 『幹線道路網の立国的意義と戦略課題へのチャレンジ』、海外調査シリーズ No. 19（H24. 9）
- [4] H. シュライバー、関楠生訳 『道の文化史』（S37. 6、岩波書店）
- [5] 拙稿「高速道路をめぐるいくつかの論点」、『高速道路と自動車』2013年1月号

他